

# F REPORT

筑紫女学園報  
No.100  
2021 FEBRUARY  
令和3(2021)年2月15日

CJ REPORT  
100TH

*memorial issue*

100th memorial issue



[筑紫女学園報100号記念 卒業生インタビュー]

## 懐かしの母校に思いを馳せて

- 同窓会会长からの祝辞
- 学校法人筑紫女学園 理事長ご挨拶
- 取組報告／筑女の歩んだ2020年の軌跡
- 中期計画「筑女プラン2023」進捗ご報告
- 決算報告
- 寄付情報
- 法海(こころに響くことば)
- 人事・公開講座



CJ REPORT  
100<sup>TH</sup>  
*memorial issue*

目次 / INDEX

- |    |   |
|----|---|
| 2  | ●Special Issue<br>一筑紫女学園報100号記念 卒業生インタビュー—<br>懐かしの母校に思いを馳せて<br>Message from Graduates |
| 9  | ●Message<br>母校へ贈る言葉<br>一同窓会会长からの祝辞—   |
| 10 | ●Greeting<br>学園報100号を迎えて<br>—学校法人筑紫女学園 理事長ご挨拶—  |
| 11 | ●Special Topics<br>筑女の歩んだ2020年の軌跡<br>一手を取り合い、コロナ禍を乗り越えた1年—                            |
| 15 | ●Information<br>中期計画「筑女プラン2023」進捗ご報告  |
| 16 | ●Information<br>2019年度学校法人筑紫女学園決算報告   |
| 17 | ●Information<br>寄付情報  |
| 18 | ●Topics<br>CJ NEWS／寄付ページ公開のお知らせ<br>●Column<br>法海(こころに響くことば)                           |
| 19 | ●Information<br>人事・公開講座   |



—筑紫女学園報100号記念 卒業生インタビュー—

## 懐かしの母校に思いを馳せて

*Message from Graduates*

学園報は100号を迎える。

筑紫女学園の歴史の分だけ、多くの卒業生が、各学校の学び舎を巣立っていきました。

筑女で毎日学びを重ね、自分を磨いた先輩たちはどのように夢を叶え、自らの扉を開いたのでしょうか。

懐かしい母校での思い出を振り返りながら、今“筑女”に通う後輩へのメッセージをいただきました。

未来への道を描いている皆さんの中を押してくれる宝物になるような言葉の贈り物です。





#### 一在校中の思い出は？

毎日何かしらの校内活動に参加していました。部長を務めた化学部では、文化祭の時に参加型の実験や楽しんでもらえる展示を企画したり、またボランティア活動では手話をしたりもしました。クラスメートも部活メンバーもみんながんばり屋さんが多く、遅くまで残って一緒に勉強していたことも懐かしいですね。

#### 一卒業後の進路は？

宇宙開発につながる大学の学部や大学院を選び、遺伝子工学を学びました。大学院を修了後はJAXAに入社し、国際宇宙ステーションを担当する部署に配属されました。現在は研究開発部門で仕事をしています。今後そう遠くないうちに、宇宙飛行士以外の人でも気軽に宇宙に行ける時代が来るかもしれません。そんな未来を現実にするのが私の仕事です。

#### 一卒業して感じる筑女の魅力は？

私は小学生の頃から宇宙に関わる仕事に憧れがあり、高校でもずっとその夢を語っていました。筑女では、先生方が「宇宙開発の最新記事を見つけたぞ」と見せてくださったり、「将来海外でも活躍するなら英



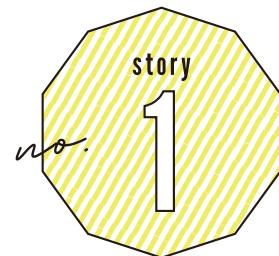
語スピーチ大会に出てみるか」と勧めて遅くまで練習に付き合ってくださったりと、外の世界を見る大切さを教えてくださいました。教育熱心な先生方が「女子だからと後ろに下がる必要はない。臆さずやりたいこ

目標は臆さず発信し、  
複数の強みを  
掛け合わせ、  
周囲も巻き込みながら  
夢を叶えて

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構  
(Japan Aerospace Exploration Agency: JAXA)

永松 愛子さん

筑紫女学園高等学校 1993年卒業



とを発信しなさい」と励ましてくれた日々こそが、筑女の魅力であり、私の心の支えになっています。

#### 一筑女へのメッセージを。

筑女には卒業してからも教育実習や、全校生徒に宇宙に関して話す講演で呼んでいただき、後輩の前で話す機会をもらつたんですが、「夢を叶えるコツ」を聞かれました。学生時代も今も実感しているのは、発信する力と、周りを巻き込んでいく力があれば、自分でも想像しなかったような速さで夢が叶うような気がします。それと自分の強みを増やしておくことも大切です。得意分野を掛け合わせることで自分だけの強みや大きな力になってくれます。広い世界へと羽ばたいてください。



当時、部長を務めた化学部のメンバーとの記念写真。上列中央が永松さん



**大学で受けた温かい叱咤激励で、  
難しかった国家試験に合格。  
達成感を糧に、また次の挑戦へ**

**一大学時代の思い出は？**

社会福祉士の試験でしょうか。大学生活の集大成でしたが、なかなか勉強に身が入らず、夏の模試でも合格基準に届かなかつたんです。すると、実習指導室の方から「1点でも上回れば合格、1点でも下回れば不合格。どちらがいいか考えてみて。落ちたらかなり後悔するよ」と励まされ、奮起することができました。

**一卒業して感じる筑女の魅力は？**

型にはめられることなく、個性を生かして伸び伸び自分を磨くことができました。「これしなさい、あれやりなさい」と言われた記憶ではなく、いつも「興味があることを深めていいよ」と背中を押してくれました。社会に出ると、自分で課題も解決策も見つけなくてはならないので、大学時代にその練習ができてよかったです。

**一卒業後の進路は？**

学生時代の実習先だった社会福祉法人

「柚の木福祉会」に就職しました。どんな人でも生きやすい多様性のある場づくりを目指し、「福祉=暗い」というイメージをポジティブにすることに力を注ぎました。小学校の一角にあった、知的障害を



持つ方々と小学生が交流できる福祉作業所「ふれあいの部屋」をダンスや笑顔で彩り、2015年度の「グッドデザイン賞」の未来づくりデザイン賞や、高齢者介護や障害者福祉などの現場で働く若手職員らを表彰する「社会福祉ヒーローズ」を受賞しました。全国からたくさんの方が見学に来てくれてうれしかったです。

NPO法人issue+design  
**藤田 智絵 さん**  
筑紫女学園大学 2011年卒業



**一今後の夢は？**

私は筑女大で「福祉はみんなの幸福」ということを教わったことから、夢の入り口に立つことができました。卒業後も「柚の木福祉会」でさまざまな挑戦をし、2020年からは「issue+design」という団体で、持続可能な社会をつくるSDGs実現に向けた活動をしています。今後は持続可能な社会をつくっていくため、より良い未来を形にしていくための知識を身につけ、多くの人と意見を交わしながら、考え、実行していきたいです。



3年次に友人と思い切って出かけたイタリア旅行。左が藤田さん

毎日が楽しかった  
幼稚園時代。  
今は保護者として  
あの坂を上り、  
子どもたちの笑顔を  
見守る日々

福岡県スケート連盟  
**松本 瑛理**さん  
筑紫女学園大学附属幼稚園 1994年卒園



一筑女に入ったきっかけは？  
筑女を訪れたときに、私が目を輝かせて、「絶対ここに行きたい！」と懇願したそうです。母も私が伸び伸びしていたから大賛成だったと聞いています。

一幼稚園時代の思い出は？  
わんぱくに遊んだり、絵本をたくさん読んでもらったり、何気ない日常の遊びもしっかり覚えています。掘ったたけのこや豚汁を囲んでパーティーをしたり、落ち葉で焼き芋を焼いてみんなで食べたりしました。「いつに戻りたい？」と聞かれたら、「絶対、幼稚園！」と言えるぐらい私にとってかけがえのない時間でした。



先生につくってもらったアイロンの衣装をまとって学芸会の舞台に立つ松本さん



一特に印象深いのは？  
先生につくってもらった学芸会の衣装です。私は、アイロンを背中に背負ったキャラクターを演じたのですが、用意された衣装の背中のアイロンがどうしても気に入らない

いました。少し進んでは背負わせてください「ここをもうちょっとこうして」と一丁前に注文をつけると、私が気に入るまで付き合ってくださいました。今でも思い出すと、申し訳ないけれど、とてもうれしかったことを思い出します。



くて「これじゃない！」と強く主張していたらしいんです。それを見ていた裁縫が得意な先生が「私がつくってあげる」と言ってくれて、私はアイロンの出来具合をチェックするために毎日先生のところに見に行って

一筑女へのメッセージを。  
2人の娘も筑女幼稚園に入園しました。2人共、私に似て、夏休み中も「幼稚園に行きたい！」と言っていましたほど幼稚園好き。先生方の温かい愛情に見守られ、伸び伸びすくすく育っています。私も保護者として夏祭りの企画委員会など運営に関わり、親子共々、知的好奇心を刺激されています。今年迎える幼稚園の50周年、学園報の100号と歴史の1コマに立ち会えて光榮です。これからも100年200年と続いてほしいと願っています。



## 短大・大学と学び続け、 「理想の保育」像を描き、 幼児教育の現場で実践へ

社会福祉法人輔仁会つばみ保育園

**小島 千枝 さん**

筑紫女学園短期大学 1983年卒業  
筑紫女学園大学 2006年卒業

### 一筑女に入ったきっかけは？

高校時代に人と関わる仕事に興味を持ち、幼児教育を学ぶために短大に入学しました。その後保育の現場で働き、さらに保育や心理学の学びを深めに、再び4年制の筑女大の門をくぐりました。

### 一短大時代の思い出は？

短大時代は、とにかく先生方が教育熱心でした。ピアノなどの実践的な授業で細かいご指導をいただいたおかげで卒業後も「筑女の卒業生はピアノがうまい」と褒めていただき、誇らしく思いました。

### 一卒業後の進路は？

卒業後は幼稚園に就職しましたが、働しながら保育士資格をとって、現在も働いている保育園に就職しました。保育士として働く中で、短大で学んだ幼児教育の他に養護や保護者支援についてもっと知りたいと思うようになり、大学で学び直そ

うと決意しました。

### 一大学時代の思い出は？

実際の現場経験とも結びつけることができてより深い学びが得られました。自分に足りていなかった部分を振り返って、後悔したり、少し辛い思いもしましたが、それだけ学び直した意義が大きかったということだと思います。



### 一筑女へのメッセージを。

私は短大、大学と2度学びましたが、学びに終わりではなく、今もアップデートを続け



大学時代の地域貢献プロジェクトの仲間と。  
上列左が小島さん

ようと努めています。できることが増えても、チャレンジを続けていれば失敗もするし、課題も見えてきます。でもそれを繰り返すことで自分が成長していくことが人生ですよね。こうした考え方や習慣ができたのも、筑女の仏教教育のおかげだと思います。自分とは何かを突き詰めて考えたり、自分を知るために自分を客観的に観察する機会をいただきました。母校への感謝や後輩へのエールの気持ちはずっと変わらず伝えていけたらと思います。



**伸び伸びと学ぶことができた大学時代。  
好きなことを貫くことで、  
成長する自分を感じることができた**

日本航空株式会社  
**大塚 萌さん**  
筑紫女学園大学 2013年卒業



**一筑女に入ったきっかけは？**

私は、太宰府で生まれ育ち、小中学校も太宰府でした。筑紫女学園大学(以下、筑女大)は由緒があり、豊かな自然環境にも恵まれている大学なので両親からの勧めもありました。オープンキャンパスに参加した時にも校舎がとてもきれいで憧れたことを覚えています。自転車で通える距離でしたので自転車通学をしていましたが、坂を上る時の景色は忘れられません。

**一学生時代の思い出は？**

英語学科の学生はみんな仲が良かったのでいつも一緒にいました。少人数なので先生が見守ってくださっていることが実感でき、とてもアットホームな雰囲気でした。学食もメニューが豊富でおいしい上に、食堂スタッフの皆さんと何気ない会話を交わせるので、私にとっては毎日行くのが楽しみな憩いの場所でした。

**一印象的な学びは？**

私は入学前から航空業界を志望していたのですが、「ビジネスエアライン」という授業で元CAの方がチェックインや接客シーンでの英会話を教えてくださいました。現役時代のお話をたくさん伺い、航空業界への理解が深まったように思います。



**一夢を叶える秘訣は？**

自分が好きだと思えることがあるならばひたすら突き進むことです。好きを極めると、本当にやりたいことが見えてきます。もしあまり明確にやりたいことが決まっていなければ、語学力を磨いておいたり、挨拶や整理整頓、感謝の気持ちを持つなど、ご

く当たり前のことをきちんと習慣づけていたりすることはとても大切だと思います。

**一筑女へのメッセージを。**

今振り返っても筑女大はとても自由な校風で、いつも楽しく笑顔で過ごしていました。温かい先生方と仲間に囲まれて、好きなことを貫き、伸び伸びと成長できる環境は筑女の何よりの魅力だと感じます。これから筑女の皆さんにとりましても自らの輝きを見つけられるかけがえのない場所になりますよう願っています。



充実した大学生活を過ごした友人たちとの卒業式での笑顔



良きライバルと切磋琢磨し、  
ともに夢を叶えた喜び。  
仏教の教えも  
医療人としての糧に

九州大学病院 心臓血管外科  
宮城 ちひろさん  
筑紫女学園中学校・高等学校 2007年卒業



高校1年次、オーストラリアに留学した際のホストファミリーとの思い出のショット

CJ Report 100th memorial issue

#### 一筑女に入ったきっかけは？

家から通える私立中学で、当時、東京大学への進学者が多かったことと、両親が「女子校の方が周りを気にしすぎず、自分らしく過ごせるんじゃないかな」と後押ししてくれたからです。

#### 一在校中の思い出は？

同じ夢を持った良いライバルがいたおかげで夢に向かう原動力になりました。卒業後、大学の医学部でも「筑女の4人組」とまとめて覚えられ、今も違う診療科ですが、現役医師として活躍する仲間の存在に助けられています。

#### 一卒業して感じる筑女の魅力は？

やはり一言で言えば、出会いです。友人はもちろん、私たちと向き合い、夢への背中

を押してくださいました先生方も印象的でした。今私はアメリカで医学研究をしていますが、英語の先生から「世界を見る姿勢



を大事に」と教わったことも影響しています。また、仏教の授業では「人生とは苦である」と教わり、多少辛いことがあっても「それが人生だ」と捉えられるようになったことに加えて、他者への優しさや周囲への感謝も筑女で学びました。おごらず、

感謝の気持ちを胸に、前向きに生きるという柱はここで築けたと思います。

#### 一筑女へのメッセージを。

筑女は、学習面でも人間的にも本当に学びの多い学校です。個性豊かで優秀な人が多いので、どんな夢を抱いていても良きライバルや仲間が見つかると思います。中高には医進コースができたそうですが、同じ夢を志す仲間を蹴落とすではなく、互いの存在を自分ががんばるための原動力に変えて切磋琢磨していくたらいいですね。これからはチームの時代。医療業界に限らず、みんなを巻き込む力が必要です。学生時代から視野を広く持ち、いろんな人と積極的に関わることは有意義なはずです。夢や、思わぬ才能が花開く入り口を見つけてください。

## 【 母校へ贈る言葉 】

学園報100号を記念して、大学と中学校・高等学校の同窓会会長から  
メッセージをいただきました。

### 筑紫女学園大学同窓会「紫友会」



会長 石川 昭子

学園報100号発刊おめでとうございます。私は、短大家政科2回生(1968年卒)で、当時は高宮校舎でした。世間では、社交ダンスが流行っており、どうにかわが校でもと思い、仲間たちと「団体ダンス部」を創部しました。創部の許可は、当時の事務局長にお願いに上がり、人生で一番緊張した思い出です。学校生活では男性を意識する必要がなかったせいか、気取らずありのままの姿で、みんな自信に満ちていたと感じます。

また、中学校・高等学校の在学時には毎週朝礼の講話があり、水月文英先生(筑紫女学校2代目校長)や他の先生方の講話を聞かせていただきました。定期的に命との向き合い方を学べたことは、今でも糧となっています。仏教のみ教え

のおかげで、日々の生活の中、命だけでなく、何事に対しても、当たり前に大切に向き合えていると感じます。

短大は50年で終了し、大学に継続しています。中学校・高等学校は「精華会」、大学は「紫友会」の同窓会組織があり、卒業生は10万人を超えてます。社会に出れば必ず周りに筑女出身の先輩がいらっしゃいます!きっと心強いことでしょう。このご縁を大切にし、社会に羽ばたいていかれることを願っています。

母校のますますの発展を楽しみにしているとともに、紫友会として後輩である在学生を精一杯応援・支援させていただくため、同窓会活動を行ってまいります。

### 筑紫女学園中学校・高等学校同窓会「精華会」

学園報100号発刊おめでとうございます。私は、高等学校新22回生(1971年卒)で、当時は放送部に所属していました。毎日の校内放送や行事時の放送、全国大会出場に向けての練習、番組制作など、部活一色で過ごした思い出が蘇ってまいります。高校放送部が51回連続で全国大会に出場し、途切れることなくつないでいる後輩たちの活躍を称賛し、また感慨深く思います。

顧みますと、高等学校時代の仏教の授業や学校行事を通じ、情操豊かな心を育んでいただきました。現在も学校の正門と紫苑館前の聖句板に掲げられている「今月のことば」は、私の人生の道しるべとして日々の生きる糧となっており、改めて母校とのご縁に感謝いたします。

現在の情報化、グローバル化、多様化した社会の中で、母校が目指されている学力だけでなく心や人生の豊かさの教育は、これから自立した女性として生きるためにも不可欠なことでしょう。自ら考え判断し、高い志を持ち、夢への挑戦をしながら、自分らしいライフスタイルを見つけることが大切だと思います。

また、中学校・高等学校時代に出会った、刺激を与え合える友人は生涯大切な財産となります。卒業後も交友を深め、誇りと自信を持ち続けてください。

精華会も、先輩方の熱い母校愛を受け継ぎ、伝統と革新を融合した女子教育に挑む母校のますますの発展に、卒業生として貢献できることを問い合わせ、寄り添いながら同窓会活動を続けてまいります。



会長 原田 裕美子

## 【 学園報100号を迎えて 】



学校法人筑紫女学園  
理事長

**杣山 真乘**

本学園は明治40(1907)年に創設され、その間10万人を超える卒業生を輩出してまいりました。この度記念すべき100号を発刊するにあたり、一部ではありますが社会で活躍されている卒業生の方々にお話を聞きました。本学園での思い出や魅力を生き生きと語られている様子に、うれしくなると同時に思いを馳せたことがあります。

あるとき、お寺の境内に久しぶりに遊びに来た中学生たちが、「ちょっと狭くない?」と言いました。私が「それは君たちが大きくなったからで、幼稚園の時と立ち位置の目線が違うからだよ」と言うと「目線?」といぶかしそうでした。

私は学生の頃、世界史を習いました。しかし、今から思えば、それはほとんど北半球の出来事でした。地図でも、九州を上に北海道を下にするとまるで違って見えます。また、歴史が男性社会から見たものであるならば、女性から見ればどうなるのかと思うことがあります。

風俗習慣、常識、建前や思い込み、決めつけ、時代のズレに縛られた女性観をひっくり返したら、どのような風景が広がるのだろうと思います。

それをいつも教えてくれるのは子どもたちです。目線にとらわれることなく、のびのび遊んでいます。寒かろうが暑かろうが、甲高い声で走り回っています。

本学園を卒業した皆さん、このようにのびのびと社会で飛び回っていることを望んでいます。

### 100号発刊、感謝申し上げます。

筑紫女学園報は昭和60(1985)年に对外的な広報活動を目的に、第1号が創刊されて以来、在校生や卒業生、保護者の皆さまをはじめとする学園関係者との結びつきをより深めていくことを願いとして、この100号まで取り組んでまいりました。

創刊当初はA4サイズの4ページ、全面白黒印刷であり、記事の内容は主に当時の理事長や学長、校長からの言葉をお届けしておりました。昭和63(1988)年に発刊した第7号からは一部カラーの写真を掲載し、各設置校の行事や部活動の取り組みを紹介するようになりました。その後の平成8(1996)年に発刊した第28号からはオールカラーとなり、現在の形式である毎号特集記事の掲載が始まりました。

# 筑女の歩んだ2020年の軌跡

一手を取り合い、コロナ禍を乗り越えた1年—

全世界に甚大な被害をもたらした新型コロナウイルス感染症。

緊急事態宣言が発令された2020年4月以降、  
学生・生徒・園児の健康確保を第一に、学びの環境を提供するべく、  
感染拡大防止に努めながら実施してきた取り組みを  
学校ごとに紹介いたします。



遠隔授業をやってみて



現代社会学部  
現代社会学科 准教授

花野 裕康

オンラインで授業を受講した学生が、対面で授業を受講した学生と同じ学修効果を得られるように心掛けてきました。そのための取り組みのひとつとして、授業で使用する動画に字幕をつけることに加え、私の解説音声にもリアルタイム字幕をつけました。オンライン授業では授業内容が動画として残り、学生たちに何度も授業内容を確認してもらえることは非常に大きかったです。私自身も前回の授業内容を振り返ることができるため、次の授業の準備や改善に大変役立っています。

また、学生から質問や感想などを受け付けた結果、オンラインで授業を受講している学生から非常に多くの声が届きました。学生からの質問に回答しつつ、授業進行をすることができ、学生からも「レスポンスが早い」、「自分の意見が出しやすい」との声が届いています。



遠隔授業では資料の画面共有に加えて、音声のリアルタイム字幕やコメント欄が表示されている

## 『遠隔授業』と『対面授業』の両方の形態にて実施

2020年4月22日よりオンラインでの遠隔授業を開始しました。Microsoft Teams、Zoomを利用してオンデマンド型授業、リアルタイム型授業を併用して行いました。6月以降は対面授業も学内での感染予防対策を十分に講じた上で再開して、基礎疾患を持つ学生や県外の実家に滞在する学生、外出に不安を感じている学生にも配慮し、遠隔地からも出席できる環境にて登校前提の授業運営とならないよう柔軟な形で実施してきました。

## ノートパソコンおよびWi-Fiルーターの貸与

パソコンおよび通信環境の整備ができない学生に対してはノートパソコンおよびWi-Fiルーターを貸与しています。



## 郵送サービスによる図書貸出

メールにて図書館の書籍の貸出依頼を受け付けており、書籍を5冊まで指定された住所へ郵送で届けています。返却についても郵送返却のサービスを行っています。



## 対面授業

教員はマスクやフェイスシールド等を着用、受講学生はマスクを着用して、換気・消毒を徹底し、密にならないように配慮して授業を行っています。





県人会(福岡県と佐賀県出身以外の学生で構成された団体)の学生が窓口を担い、学生たちへの呼びかけを行っている

## 食料支援

コロナ禍の影響により、アルバイトができない、仕送りが減少した等の状況下で経済的に困窮する学生への食料支援を2020年5月より実施しています。卒業生や地域の企業・団体・個人、教職員よりお米・乾麺・野菜・フリーズドライ食品等を寄贈していただき、支援を希望する学生に対して1回あたり約2週間分の食料品を提供しています。延べ722名(2020年12月31日時点)の学生が食料品を受け取っており、現在も継続して支援を続けています。



①1回あたりに学生に提供する食料品  
②エフコーポ生活協同組合様より食料品の支援をいただいた際の様子  
③食料品提供コーナー。予約なしで直接受け取りに来ることも可能

## 食品提供にご協力いただいている支援団体

本学の食料支援の取り組みに共感いただいた多くの企業や団体、個人の皆さんにご支援をいただき、コロナ禍で経済的に困窮するたくさんの学生のもとに食料品を届けることができました。温かいご支援に心より感謝申し上げます。



- ・セブン-イレブン・ジャパン(太宰府市社会福祉協議会仲介)様
- ・エフコーポ生活協同組合様 ・記録情報マネジメント株式会社様
- ・株式会社共立メンテナンス様 ・株式会社宝珠山ふるさと村様
- ・有限会社つづみの里農産物直売所様 ・筑紫女学園大学同窓会紫友会様
- ・浄土真宗本願寺派西教寺様 ・浄土真宗本願寺派寶蓮寺様
- ・株式会社共栄ビル・パートナーズ様
- ・その他卒業生等個人の方からのご支援多数

## 筑紫祭

2020年10月24日、25日にオンラインにて筑紫祭を開催。事前収録や生放送でのミスコン企画やタレントトークショー、サークルによるフリーライブをYouTubeにて配信し、TwitterやInstagramでも各企画の情報を発信して筑紫祭を盛り上げました。



実行委員や出演者のコロナ感染防止対策を徹底した上で、無観客での完全オンライン配信で実施

## オープンキャンパス

2020年8月9日、23日にオープンキャンパスを開催しました。事前予約制のもと検温やマスク着用等、感染防止対策を徹底して、ミニ講義・個別相談コーナー・謎解きキャンパス見学を実施しました。



高校生・保護者の皆さまの不安解消に応える  
個別コミュニケーションを重視したプログラムを実施

## 中学・高校

### 緊急事態宣言下のICTを利用した生徒へのサポート

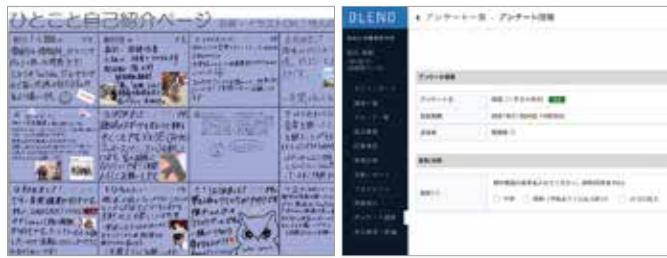
2020年4月～5月の緊急事態宣言下における休校期間中は、Microsoft TeamsやZoomを利用して毎朝のホームルームや、個人面談、リモート授業を行いました。リモート授業では学校側からの一方通行の動画配信だけではなく、同時双方向型のグループ学習や授業を実施しました。



毎朝、決まった時間にクラス担任によるホームルームが行われた

### ○アプリを利用したコミュニケーション

校務支援システムBLENDを利用して、生徒は体温記録や1日の教科ごとの勉強時間・学習内容の入力に加え、クラス担任からの保護者連絡や生徒が入力した記録に対しての応答もしていました。また、入学時より休校期間となった1年生は学習アプリを利用して自己紹介を行い、まだ会ったことのないクラスメートとの仲を深めました。



(写真左)クラスメートとの学習アプリを通じての自己紹介ページ  
(写真右)BLENDは学校と家庭を結ぶ、コミュニケーションツールとなっている

### ○オンラインによる修学支援

ICTを活用したオンライン授業配信、課題配信など、何とかして生徒たちの学びを止めないよう日々試行錯誤を繰り返す中、動画配信のみの一方通行とならないようにビデオ会議機能を使って、生徒からのリアルタイムでの質問応対や生徒同士のオンライングループ学習も実施しました。



今年度より新設された医進コースではICTを用いてオンラインにて医進探究活動を行い、チームごとに与えられたテーマに対して議論を重ねて、レポートをまとめた

### 3密避けた校内行事

2020年5月23日より全学年の通常登校が解禁されて以降、校内行事は中止や規模の縮小、内容を変更して、感染防止対策を徹底し、安全に配慮してきました。

10月には中学校の体育祭の代替行事として、スポーツ大会が開催されました。生徒たちの開催を強く希望する声に加えて、開催のために必要な感染防止対策が生徒から提案されたことを受けて実現しました。



(写真上)全校集会は代表生徒以外の教室視聴の形式で行っている  
(写真下)スポーツ大会は学年ごとに開催され、球技、リレー、ダンス、応援合戦などの種目が行われた

# 幼稚園

## SNSやアプリを利用したコミュニケーション

登園できなくてもSNSを通じて、幼稚園の雰囲気やつながりを感じてもらえるように努めるとともに、園児や保護者の皆さまの健康状態を把握することで、いつでも安心して登園できる幼稚園を目指しました。

### ○Instagramを利用したホームルームや動画配信

4月3日に公式Instagramを開設した幼稚園では、緊急事態宣言下の休園期間中、毎朝9時にInstagramライブを利用して、体操や手遊びの動画配信をしたり、先生たちから園児たちへ出題されるクイズを定期的に更新したりしながら、園児や保護者の皆さまが自宅でも楽しめるような情報発信をしてきました。IGTV(Instagramの長時間動画サービス)を利用しての配信では幼稚園探検などを行い、好評でした。

### ○アプリを利用した健康管理

長期休みになることでの不安解消や園児・保護者の皆さまの健康管理のために、アプリを利用したアンケートを週に一度行いました。



① Instagramにて配信された「☆たいそう☆」動画  
② 休園中に随時更新された「すきな〇〇なんだ?」クイズ  
③ 健康管理アプリのアンケート

## 短縮・規模縮小の中開催されたイベント

5月末に分散登園からスタートし、段階的に園生活を再開しましたが、大きなイベントに関しては形態を変更して行いました。

### ○夏まつり・運動会

全学年合同で行っていた夏まつりと運動会でしたが、今年度は学年ごとに分けて、平日に開催しました。また、人数制限もを行い、夏まつりは園児のみとして、運動会は参加・観覧できる保護者の人数を制限しました。



(写真上)晴天の中、リレー、かけっこ、ダンスや玉入れ等に奮闘した運動会  
(写真下)浴衣を着飾り、ヨーヨー釣り、盆踊り、かき氷に大満足の夏まつり

### ○発表会

学年ごとに行っていた発表会をクラスごとに変更して開催しました。安全に配慮して発表会での歌の披露は中止となりましたが、クラスごとの発表のため園児たち一人ひとりの役割が増え、充実した発表会となりました。



絵本を題材にしたストーリーのそれぞれの役になりきって、クラスのみんなで力を合わせて、練習の成果を堂々と披露した発表会



# 「筑女プラン2023」の進捗ご報告

令和元(2019)年度の単年度目標及び最終年度(令和4(2022)年度)の目標に対する達成状況について

令和元(2019)年に私立学校法をはじめとした私立学校関係法令が改正され、令和2(2020)年4月1日から施行されました。この改正のひとつとして、学校法人に中期計画の策定が義務付けられました。

本学園においては、法改正に先立ち、5カ年の中期計画である「筑女プラン2023」が平成30(2018)年6月から既にスタートしております。「筑女プラン2023」の2年目にあたる令和元(2019)年度の単年度目標及び最終年度(令和4(2022)年度)の目標に対する達成状況は以下の表のとおりとなります。

	(%)				
	学園全体	大学	中学校・高等学校	附属幼稚園	法人本部事務局
単年度目標に対する達成率	62.6	56.5	59.0	86.3	48.6
最終年度目標に対する達成率	49.3	45.8	45.7	62.8	42.9

## 【大学】

### ①教育の質保証及び教学マネジメントの確立

現行カリキュラムの運用を全学・学部・授業レベルの3つの側面からエビデンスに基づいて検証し、的確な改善につなげるための体制整備を完了しました。現在はその機能性の評価・検証段階に入っています。

また、「教育の質保証」を確たるものとする上で必須となる「学習成果の可視化」について、その指標となる「アセスメントプラン[\*1]」を策定して学内で共有するとともに、現在進行中の学務システムの再構築と併せて「学習ポートフォリオ[\*2]」の導入作業を進めています。

\*1…学生の学修成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などを定めた学内の方針

\*2…学生が授業で作成したレポートや論文、課題達成のために収集した資料や成績表などの学修成果と、学修の過程において学んだ点や気付いた点などを記録していくもの。

### ②総合的な教育及び学生生活支援

平成30(2018)年度から着手している「魅力あるキャンパス創造プロジェクト」におけるハード面の主柱である「学生食堂」及び「売店」のリニューアル並びに「中庭へのカフェの新設」が完了しました。これらの施設は、単なる飲食の場に留まることなく、学生及び教職員による教育や研究、あるいは学生の自発的な活動の場としての積極的な活用を見込んでいます。

## 【中学校・高等学校】

### ①電子黒板及びタブレット端末の完全普及

教育環境のICT化について、全教室への電子黒板の設置が完了した上、生徒にiPadを配布したことにより、電子黒板と組み合わせた授業改善が大いに進みました。また、iPadは、新型コロナウイルスの影響による学校休業中には、オンラインによる授業、ホームルーム、面談、グループ学習など、生徒の評価も高く、非常に効果を発揮しました。

### ②生徒の志に応じたコースを新設

入学時又は早い段階から将来に向けての志を意識してもらいたいということから、「医進コース」を新設した上で「国公立大学コース(文・理)」等のコースにより、同じ志を持つ生徒同士が切磋琢磨できる環境を整備しました。また、高校コースと中高一貫コースとでは授業進度が異なるため、同じクラスに合流することが難しかったのですが、カリキュラムを工夫し、混合したクラス編成を可能としました。

## 【附属幼稚園】

### ①ICT教育の導入

保育、動植物の図解説明、劇の練習、歌唱練習等で平成30(2018)年度に設置した大型プロジェクターと電子黒板を積極的に活用し、園児に対し、視覚に訴えることで、学習効果をより高めることができました。また、保護者への説明会等にも活用をしています。

### ②預かり保育の拡充

預かり保育の希望者が年々増大しており、保護者のニーズに応えるため、通常の預かり保育に加え、長期休業中(春・夏・冬)の預かり保育を実施し、延べ331名の園児が利用しました。また、預かり保育の予約においてアプリを導入することにより、保護者の利便性の向上を図りました。

## 【法人本部事務局】

### ①旅費制度の見直し

経費の抑制及び事務負担の軽減を目的に出張制度を見直し、新たな制度を構築しました。この制度の目的達成のため、出張申請に係るシステムを導入し、合理的な出張経費の算定や事務負担の軽減、ペーパーレスに寄与しています。

### ②寄付金協力者の拡大(多様な収入源の確保)

5月の評議員会において昨年度の寄付金実績の報告を行い、ステークホルダーである同窓会に対し、謝意と今後の寄付の協力要請を行いました。加えて、寄付者にとってより簡素に寄付を行っていただきたいとの思いから、ホームページ上で寄付を募る寄付収納システム「F-REGI」の導入について検討を行い、導入の目途が立ったことから、令和2(2020)年度からの稼働が決定しました。



# 寄付に関する報告とお知らせ

日ごろから、本学園の教育振興のためにご支援・ご協力を賜り、深く感謝しております。

本号では2019年10月1日～2020年12月31日までに寄付申込みいただいた皆さまのご芳名を掲載させていただきます。

## 寄 付(順不同)

以下のとおり、ご寄付・ご寄贈をいただきました。誌上、お礼とご報告をいたします。

### ● 寄 付

御笠組坊守会 様

金額 100,000円（東日本大震災ボランティア研修に対する支援金として）

光圓寺 様

金額 100,000円（東日本大震災ボランティア研修に対する支援金として）

筑女ボランティアネット 代表 栗山 俊之 様

金額 740,000円（東日本大震災ボランティア研修に対する支援金として）

筑女「めざめ」プロジェクト×ネスレ日本株式会社

アフォガード チーム 様

金額 16,626円（筑紫女学園大学の国内ボランティア活動の支援金として）

筑紫女学園大学 連携推進部 ボランティア活動支援センター 様

金額 50,500円（筑紫女学園大学の国内ボランティア活動の支援金として）

金額 51,047円（筑紫女学園大学のネパール復興教育支援プロジェクト支援金として）

株式会社ジック 代表取締役社長 尾崎 靖亮 様

金額 2,000,000円

（筑紫女学園大学のネパール復興教育支援プロジェクト支援金として）

リフォームセンターワカモト

代表 塚本 明美 様

金額 100,000円

（筑紫女学園大学のネパール復興教育支援プロジェクト支援金として）

田中 秀吉 様

金額 100,000円

（筑紫女学園大学の子ども応援グループ「LYKKE」の活動支援のため）

厨 義弘 様

金額 100,000円（筑紫女学園大学の教育支援のため）

一般財団法人 九州環境管理協会 様

金額 200,000円（大学現代社会学部 佐々木 浩教授 哺乳類研究支援金として）

一般財団法人 自然環境研究センター 様

金額 182,000円（大学現代社会学部 佐々木 浩教授 哺乳類研究支援金として）

妹尾 祥子 様

金額 30,000円

（大学人間科学部 大西 良准教授 子ども食堂活動及び研究活動資金として）

裏辻 賢子 様

金額 2,000,000円（筑紫女学園中学校・高等学校の教育充実のため）

三木 ひとみ 様

金額 1,000,000円（筑紫女学園高等学校の部活動振興のため）

松居 貞子 様

金額 30,000円（筑紫女学園高等学校図書館の充実のため）

株式会社和田設計 代表取締役 和田 正樹 様

金額 500,000円（筑紫女学園の発展の支援として）

山中 優子 様

金額 100,000円（筑紫女学園の育英奨学金として）

高石 佳子 様

金額 70,000円（筑紫女学園の育英奨学金として）

筑紫女学園大学後援会 会長 北川 皇史 様

金額 1,000,000円（大学の教育研究費の補助として）

金額 2,500,000円（スクールバス運営費補助として）

金額 6,000,000円（証明書発行機更新費補助として）

筑紫女学園後援会 会長 脇山 章太 様

金額 2,000,000円（図書購入費補助として）

金額 4,689,497円

（クラブ顧問手当、特別コーチ料補助、スクールバス維持管理費用補助として）

金額 1,951,200円（芸術鑑賞・能楽鑑賞費補助として）

筑紫女学園高等学校 筑紫会 様

金額 3,714,020円（部活動コーチ謝礼・交通費として）

筑紫女学園中学校 筑紫会 様

金額 1,067,040円（部活動コーチ謝礼・交通費として）

杣山 真乘 様

金額 1,000,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

中川 正法 様

金額 500,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

上村 真仁 様

金額 100,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

松崎 智子 様

金額 50,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

栗山 俊之 様

金額 50,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

宇治 和貴 様

金額 50,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

小林 久泰 様

金額 50,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

川尻 洋平 様

金額 50,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

原田 真 様

金額 50,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

矢幡 敏男 様

金額 50,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

大西 良 様

金額 15,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

川崎 孝明 様

金額 15,000円（筑紫女学園大学のコロナ禍における学生修学支援のため）

匿名6名

金額 1,160,000円

### ● 寄 贈

■高等学校へ

平成30年度高等学校卒業生一同 ・メモ台付きパイプ椅子60脚・台車4台

吉田 靖子 様 ・琴 一張

浦川 順子 様 ・琴 二張

■幼稚園へ

令和元年度卒園児一同 ・屋外用テント 1張

寄付に関するお問い合わせ先

学校法人筑紫女学園 法人本部事務局総務部

〒818-0192福岡県太宰府市石坂2-12-1

TEL 092-925-9918 FAX 092-925-8319

## 筑紫女学園「寄付ページ」を公開しました!!

<https://www.chikushi.ac.jp/donation/>

学園ホームページに「寄付ページ」を公開しました。こちらのページでは、筑紫女学園にご支援をお考えの皆さまに、ご寄付の方法やご希望に沿った形で選択いただけるご寄付の使途についてご案内しております。その他にも税制優遇や寄付実績報告を掲載しており、今後もより多くの皆さまにご利用いただけるよう、内容を充実させてまいります。

### 選べる!! ゴ寄付の方法

従来の窓口や銀行振り込みでのご寄付のお申込みに加えて、以下の支払方法を選択できるインターネット上でのお申込みがご利用可能となります。

◎クレジットカード決済

◎コンビニ決済

◎Pay-easy(インターネットバンキング決済)

### 選べる!! ゴ寄付の使途

以下の項目の中から使途を指定してご寄付いただけます。

- ・育英奨学金
- ・教育・研究活動支援
- ・教育環境設備事業支援
- ・ボランティア活動支援
- ・スポーツ・文化活動支援

# 法 海

ここに響くことば\_24

幸せは自分でつくる。不幸せも自分でつくる。  
幸せも、不幸せも、まったく他人の仕業ではない。

### 『ジャータカ』

『ジャータカ』(本生經、本生譚とも呼ばれる)というお釈迦様の前世における菩薩道を歩まれる物語に説かれてあることばの一つです。このことばは、幸せなことも不幸せなことも誰かがつくり上げたものではなく、自分自身のなした行いによるというお釈迦様が悟られた“因果の理”の上から述べられたものです。

お釈迦様が悟られた“因果の理”とは、“縁起”と言われて、ものごとの結果には、必ず因縁(因=直接原因、縁=条件)があるということです。私たちは、物事の道理を考える時、こうすればこうなると原因から結果を考えていますが、その時の結果が必ずしも自分が思う通りになるとは限りません。思う通りの結果になれば自分のした事に喜び、もしそうではない時には誰かのせいにしてしまうのが私たちの心の有り様ではないでしょうか。しかし、お釈迦様は、その一つ一つの結果について考えるとき、その結果がどうであれすべて自分で引き受けいかなければならないと述べられます。そのことを表した言葉が“自業自得”です。“自業自得”と聞くと、私たちは悪い結果を得る事だけを捉えてしまいますが、お釈迦様が説かれた因果の道理からいえば、良い事も悪い事も全てが“自業自得”でしか有り得ないのです。“自業”とは、“自らの業(=行い・因縁)”という事であり、自らの行なった結果を得ていく“自得”と

いう事で、まさに今私が得ている結果をそのように見ることがお釈迦様の説かれた因果の基本的な考え方です。

また、お釈迦様の説かれたことばを集めた『ダンマ・パダ』(『法句經』165)にも、「自分で悪いことをすれば自分が汚れていき、自分で悪行をなさないならば自分が淨くなっていく。清浄と不浄とは各自のあり方による。他人は他人を淨めることはできない。」と、自分たちの行いがいつも問われていることを説かれています。

私たちはみんな“幸せ”を願い生きています。“シワセ”という字を辞書で調べてみると、“仕合せ”とあり、その意味には“めぐり合せ”ともあります。不幸を望む人はひとりもいませんが、めぐり合わせた結果を受け止めるとき、まずは自分のあり方を見つめ直し、その結果を自分の行動によってよりよい方向へ変えていくと努力をしていくことも大切なことではないでしょうか。

改めて、自分の行いによる見方を大切にされるお釈迦様のことばに耳を傾け、私たちの日々の生活についても考えてみましょう。

# 筑紫女学園からのお知らせ

## 人事

### ■採用 (令和2年4月1日付 ※一部別日採用)

#### ●教育職員

##### 大学

###### <文学部>

英語学科 准教授 山田 直子  
アジア文化学科 講師 徐 涼

###### <人間科学部>

心理・社会福祉専攻 准教授 栗田 紀子  
准教授 納戸美佐子  
准教授 日高 崇博  
初等教育・保育専攻 講師 牛島 豊広

###### <現代社会学部>

現代社会学科 講師 坂本 隆行

###### <大学改革担当>

教授 谷口 博文  
(※令和元年11月1日付)

##### 高等学校

教諭 船橋 夏帆  
教諭 矢野 慶多  
教諭 瀬戸 和子  
教諭 伊東真知子  
常勤講師 安光 桃子  
常勤講師 田中 勝法  
常勤講師 伊藤 嶺志  
常勤講師 佐藤 司

##### 中学校

常勤講師 高山 伸悟

##### 幼稚園

園長 實藤 浩一  
教諭 堀之内希巳子  
常勤講師 坂本 幸恵

#### ●事務職員

##### 大学

教学支援部 主事 野上 一直  
(※令和2年2月1日付)

##### 法人本部事務局

総務部 主事 白石真理子

### ■任命 (令和2年9月1日付)

#### ●教育職員

##### 大学

副学長 小野 望

### ■退任 (令和2年8月31日付)

#### ●教育職員

大学 副学長 荒巻 龍也

### ■退職 (令和2年3月31日付 ※一部別日退職)

#### ●教育職員

大学  
  
<文学部>  
日本語・日本文学科 教授 中村 萬里  
(※令和2年9月30日付)  
アジア文化学科 教授 田村 史子

###### <人間科学部>

心理・社会福祉専攻 准教授 金 圓景  
初等教育・保育専攻 講師 上原 真幸

##### 高等学校

教諭 壱内 よう子  
教諭 石山 佳奈  
特任教諭 樂満 和成  
特任教諭 小出 昭雄

##### 中学校

常勤講師 岡 理沙

##### 幼稚園

園長 八谷俊一郎  
教諭 西田 涼夏

#### ●事務職員

大学  
連携推進部 主任 菊池 慧  
大学総務部 企画主幹 寺田 亮子

##### 中学校・高等学校

総務班 主查 大江 陽子  
(※令和2年6月30日付)  
主任 花田 奈美  
特任教諭 進 紀子  
特任教諭 崎山 則幸  
(※令和元年12月27日付)

##### 法人本部事務局

監査支援室 室長 假屋 幸康

### 理事会・評議員会

### ■就任 (令和2年6月1日付 ※一部別日就任)

#### ●理事・評議員

古賀 哲乘  
桑野 龍一  
柴田 弘司  
大野 祐子  
加藤 千代

#### ●監事

永長寿美子

#### ●評議員

實藤 浩一  
(※令和2年4月1日付)  
高田 晶子  
岸田由美子  
仲野 抄子  
原田裕美子  
佐藤みさお  
井土 文雄  
小野 望  
(※令和2年9月1日付)

### ■退任 (令和2年5月31日付 ※一部別日退任)

#### ●理事・評議員

白山 大慧  
長谷川裕一  
一角 道宏  
水上 覚也  
熊谷 敏子

#### ●監事

藏 健一郎

#### ●評議員

八谷俊一郎  
(※令和2年3月31日付)  
白水 尚子  
小野山佳代  
伊佐 元子  
知花栄美子  
坂口紀美子  
高田 史敬  
荒巻 龍也  
(※令和2年8月31日付)

令和2(2020)年度 後期

## 筑紫女学園大学 公開講座

“ともいき(共生)”～あらゆる存在とのつながりの中で生かされていることへの目覚め～



### オンライン公開講座配信中

講座名: 筑紫女学園大学仏教学研究室公開講座

(YouTube配信版)

テーマ: 釈尊の生涯

講 師: 中川正法(筑紫女学園大学学長)



①釈尊伝の紹介と釈尊の誕生について(25分)  
<https://youtu.be/utl2AIDaHUL>



②初めての説法と仏弟子による教団について(24分)  
<https://youtu.be/XTpnfPy--ug>



③青年期の釈尊—四門出遊と降魔成道—(30分)  
<https://youtu.be/JlR1CSfhHgk>



④晩年の釈尊—最後の旅と入滅—(36分)  
<https://youtu.be/e5hYkqfbPS0>

※事前申し込み不要。上記のURLおよびQRコードよりリンク先ページにてどなたでもご視聴いただけます。